

## 【熊本県賞】

### 私たちが知らない水

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 上田 華蓮

水は生きるためになくはないものだと思う。

私は、水は世界中のどこにでもあり、蛇口をひねるとすぐ出てきてそのまま飲めるし、いくらでも使えるところだ。だから、節水のことをよく知らずに、水を使っていた。でも、実際はそうではなかった。日本では簡単に水が飲めたり、使えたりするが、世界を見てみると水不足に苦しめられている国がたくさんあった。それに、世界の六億六三〇〇万人の人が水に苦しめられているそうだ。その代表的な人物がエチオピア・十三歳の少女「アイシャ」だ。アイシャが水汲みに費やす時間は毎日八時間で、朝早くから夕方近くまで、炎天下の砂漠を一日中歩いて家族のために水を汲んでいる。それでも手に入る水は、一人当たりわずか五リットル未満の茶色い水だけ。世界中の女の子や女性たちが水汲みに費やす一日当たりの時間の総計は二億時間にも及ぶそうだ。これを知り私はもっと世界の水問題について調べてみようと思った。

ユニセフの資料などで調べてみると、きれいな水を使えない、水自体がない、水紛争などの問題があった。きれいな水を使えずに、毎日、八百人の子どもが命を落としていることもわかった。水紛争のことが気になり、もっと詳しく調べてみた。すると、現在人口増加と地球温暖化により水不足状態は更に悪化して、紛争の原因となることが多くなっている。原因としては家族や村レベルで井戸の水を巡る対立、汚染や不足分な水道の設備から発生する水不足に対するデモ、さらに国同士で川・ダムなどの水資源の使用権をめぐるものが含まれている。水争いにより暴力に発展したり、殺人事件も起きている。このようなたくさん原因により命に関わる問題が起きていたということが新たにわかった。だけれど、世界の水問題がいろいろわかったからといって、私たちは「世界には水がなくて大変だ、」と思うだけで、わかった気になっただけだろうか。

私は、自分もわかった気になっていると思う、実際に水を使えない苦しみを体験して感じてみようと思った。私が、実際に実践したことは、一日に使う量の制限は五リットルまでという土台を決め、一日に飲む水の量を一リットルにし、お風呂に入る時はお風呂にためた水しか使えない、歯磨きのときも水はうがい一口分しか水をつかえない、という条件で実験を行った。最初は全然いけると思っていた。でも、喉が渴いて一リットルではたりなかった。お風呂では、おけなどを使って頭を洗ったり体を洗ったりしていて、とても時間がかかり腕が痛くなった。でも、歯磨きは全然大丈夫だった。なので、これからはこれを毎回行っていきたいと思った。でも、まだまだ水を使う量が多いと感じた。そのため、節水をしていきたいと思い、自分が出来る節水について調べてみた。すると、お風呂のときにシャワーの水を流したままにしない、お風呂に溜めたお湯は捨てずに使用する、トイレの洗浄レバーは大・小を使い分ける、歯磨きのときに水を出したままにしない、洗濯はまとめ洗いを心がける、米を洗うときにつかった水は樹木などに利用する、などの節水の方法がみつかった。わたしは、お風呂や歯磨きのときの水の出しっぱなしをやめて、洗濯や米の水の使用などを母に提案してみようと思った。

日本はきれいな水をすぐ使える。少しでも水が濁っていると口にしようとしていない。でも、他の国ではどうだろう。他の国では毎日のように水不足や水紛争に苦しめられている。私たちはそれを聞き、世界の辛さがわかった気になっていないだろうか。また、最近では日本でも水質汚染が問題になっている。なので、私たちは節水を心がけ、日本のためにも世界のためにも水を守っていかなければいけないと思う。